別紙

令和８年度校区まちづくり交付金　交付決定助言書
【久宝寺小学校区まちづくり協議会】

〔交付決定にかかる条件〕

※下記に記載の〔交付決定にかかる条件〕については、年度内の活動の中で実践や実施に向けた検討を進めてください。その実績や検討状況については、実績報告書に記載いただき、ご報告ください。

○チャレンジメニュー①：3-④新たな担い手の確保・参画促進

これまで参加した方がどのようなきっかけで参加したのかについての調査の実施やその結果を今後の参画促進に繋げる手法についてご検討ください。

○取り組み②：炊き出し訓練とミニ防災訓練

防災訓練などの関連事業との広報の連携についてご検討ください。

○取り組み③：久宝寺寺内町で婚活

久宝寺寺内町の魅力を伝えるだけではなく、人口増とまではいかないかもしれないが、関係人口に寄与できる可能性を秘めている取り組みだと思います。このイベントを通じて、参加者がその後、寺内町にどのように関わっているかの追跡調査等の実施についてご検討ください。

○取り組み④：校庭解放、見守り活動

見守りを行うことは子供のためだけでなく、親世代の地域に関心を持たせる役割もあり非常に良い取り組みと考えます。見守り時に何かあった場合の対応マニュアルの作成やその対応訓練についてもご検討ください。

○取り組み⑤：校庭キャンプ

親子での地域コミュニティへの参加は良いきっかけになると思います。他の防災イベントとの連携についてもご検討ください。

○取り組み⑥：子どもが社会のしくみを学ぶ校外学習

今後、地域や町内での職業体験やまちづくりの仕事体験などの開催を見越した視察を兼ね、実施計画を検討するなど、八尾らしいキッザニア開催に向けて取り組む手法についてご検討ください。

○取り組み⑧：ちょこっとボランティアの展開

地域活動に参加するハードルを下げることにより、これからの担い手の確保につながる非常に良い取り組みだと思います。この取り組みの周知をさらに充実させることについてご検討ください。

別紙

○取り組み⑨：まち協の周知と町会加入促進
周知と合わせて具体的な町会への加入促進の手法や、加入者数等の目標の設定や効果検証についてもご検討ください。

○取り組み⑬：鉄道事業校外学習の実習
子どもが参加するだけで終わらないよう、他のイベントとの連携についてご検討ください。

○取り組み⑭：こども菜園の開設
まち協等の役員をはじめ保護者や地域住民と集う機会となるような工夫についてご検討ください。

○取り組み⑮：子ども防災訓練の実施
他の取り組みと同様に、防災訓練との連携とあわせて、子どもたちだけの訓練が何故必要なのかの啓蒙の実施についてご検討ください。

〔今後の活動にかかる助言〕
※下記に記載の〔今後の活動にかかる助言〕については、まち協活動でご活用ください。こちらの項目については、実績報告の際の実施状況等のご報告は不要です。

○チャレンジメニュー②：4-④自主財源確保の仕組み導入
子どもの職業体験や菜園事業との連携もあると取り組みがより良いものになるかと思いますので、ご検討ください。

○取り組み①：防災訓練
訓練だけでなく体験者の被災経験を直接学ぶことは非常に有意義だと考えます。今後についても引き続き、継続して実施してください。

○取り組み⑦：こども会だよりの発行
子ども目線のリーフレットの作成など、子ども自身が興味を持つような取り組みは非常に良い工夫であると思います。今後についても引き続き、継続して実施してください。

○取り組み⑨：まち協の周知と町会加入促進
昨年度の具体的なお手伝い内容の周知を含めたちょこっとボランティアの募集なども行えると良い連携ができるのではないかと思いますので、ご検討ください。

○取り組み⑫：こどもマルシェの開催
「子供が社会の仕組みを学ぶ」活動との連携もあると取り組みがより良いものになるかと思いますので、ご検討ください。

別紙

○取り組み名称⑭：こども菜園の開設

炊き出し訓練につながり、日常的に子どもが関わることのできる良い取り組みだと思います。今後についても引き続き、継続して実施してください。

○全体を通して

・防災、子ども育成、世代間交流、地域資源活用など、多面的な取り組みを通じて久宝寺校区の魅力向上と地域活性化を図ろうとされていることが伝わってきました。特に、防災事業に継続的かつ重点的に取り組まれている点や、子どもを中心とした地域参加の仕組みづくりに力を入れている点は、久宝寺校区の大きな強みであると感じました。

そのうえで、今後さらに事業効果を高めるために、各事業を個別に実施するだけでなく、それぞれをつなげながら「地域の担い手育成」に結びつけていく視点をより明確に持つことが重要ではないかと思います。

例えば、こども菜園で育てた野菜を炊き出し訓練で活用し、その経験を子ども防災訓練へつなげるなど、現在すでに存在している事業間の関係性を意識的に整理し、「参加から参画へ」の流れを可視化することで、各事業の意義がより伝わりやすくなるのではないでしょうか。

・子ども向け事業が豊富であることは大きな特徴ですが、子どもを単なる参加者として位置づけるだけでなく、企画・運営・広報などの役割を一部担ってもらうことで、より主体的な関わりを促進できると思います。例えば、こどもマルシェや通常の防災訓練においても、子どもがスタッフや発信役を担う仕組みを検討することで、次世代の担い手育成につながることが期待されます。

・町会加入促進や新たな担い手確保については、イベントでの周知だけでなく、参加者が継続的に地域と関われる導線づくりも重要です。チャレンジメニューとして取り組まれている「ちょこっとボランティア」は非常に有効な仕組みだと感じますので、単発参加から継続参加へつながるステップ設計や、参加後のフォロー体制についても検討されると良いと思います。

・防災を久宝寺校区の特徴的なテーマとして位置づけるのであれば、防災を単なる訓練ではなく、「顔の見える関係づくり」「助け合える地域づくり」の入口として捉え直し、年間を通じた参加導線を設計していくことも有効ではないでしょうか。

・今後は誰が担い手となっていくのかを整理したビジョンマップを作成することで、各事業の優先順位や役割がより明確になり、持続可能なまちづくりにつながることを期待しています。

・関連する事業も多く、連携を強化するとより効果が得られるのではないかと思います。単発で終わらない事業とし、リピーターを増やすことが、まち協の周知と町会加入促進につながっていくのではないかと思います。

・子供の学びも多岐にわたっており、その取り組みがまちの活動につながるきっかけづくりとして欲しいです。